

戦国武将になりきって ～戦国の世を生き抜くために～

社会 第6学年

かほく市立高松小学校・教諭

1 事例の概要

本校では研究主題『一人一人が輝き、学び合う子をめざして～かかわり合い、つながり合って考える力を伸ばす～』のもと、主体的に学習に取り組み、関わり合い、高め合う授業をめざしてきた。そのためには、課題解決型学習を重視しつつ、子どもの考える力を育み、子どもの思考に沿った単元構成、教材の本質に迫るような課題や学習活動、教師の発問や板書など教師の支援を吟味していくことが大切であると考え、取り組むことにした。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 単元の目標

長篠の戦いや戦国の世の統一に興味をもち、天下統一を進めた信長、天下統一を成し遂げた秀吉、全国支配を固めた家康について調べ、戦国の世が次第に統一されていったことを理解し、3人の武将を中心とした先人の働きや時代背景について関心を深める。

(2) 指導上の工夫（指導の重点）

① 課題設定の工夫

長篠の合戦の絵を見ると、鉄砲を使い織田軍が優勢であることは、子どもたちにとって容易に考えられる。これでは、問題意識が弱く、長篠の戦いに挑む信長の心境や織田軍の戦いの様々な工夫に気づく必然性が薄いと見え、まず、武田軍の強さを学習することにした。「最強の騎馬隊」「鍛えられた馬」「信玄の人となり」等を学習し、子どもたちの心を信玄に寄り添わせるようにした。そこで、子どもたちの疑問〈織田軍は、最強の騎馬隊をもつ武田氏をなぜ倒すことができたのだろう〉をふくらませ、課題に練り上げられるような教材との出会わせ方を工夫した。

② “自ら”になるような教師の働きかけ

歴史を学ぶにあたって、「過去のことである」「こんな歴史的事実があったのだなあ」で終わって欲しくはない。大切にしたいのは、歴史上の人物の生きざまを教材化することにより、「もしその時、自分だったら…」と考えることにより、社会生活や自分の生き方へ自分なりの見方、考え方の基礎を育てていきたいと願っている。そして子どもの心の中心に、「学んでよかったな。もっと学びたい。」という意欲を育てていきたい。

3 指導の実際

戦国大名 ・戦国大名には、どんな人がいるかを調べどんな願いを持っていたかを考える。

○戦国大名には、どんな人がいるのだろう

上杉氏・北条氏・武田氏・織田氏・徳川氏・毛利氏など

・戦国大名の願いは？ 自分だったら…？

- ・ 領地を広めたいから戦いをする
- ・ 自分の国を豊かにしたい
- ・ 京へ上り、全国一の武士と認められたい

（課外）戦国大名について、本の読み聞かせ

武田信玄の強さ ・武田氏の強さの秘密を考え、信玄の願いを知る。

関心意欲 戦国大名にはどんな人物がいるのか調べようとしている。
☆自分が興味を持った大名を調べるよう促す。1560年と16世紀終わり頃の戦国大名の領地の様子を紹介する。

戦国大名に興味をもち、名前や地名を覚えていた。願いや業績も考えさせたことにより、大名になりきって考えている子が多かった。戦いに負けることは、死を意味すること、少しでも領土を広げ豊かな国にしたい。天下をとって、戦いのないよい国にしたいという願いを膨らませることができた。その中で、戦国最強と言われた信玄を扱ったことは、信長の先進的な戦術へとつながることができた。

○武田信玄はどんな武将だったのだろう

- ・ 本当に強かったのかな？
- ・ 最強の騎馬隊・風林火山
- ・ どうして信玄は城をもたなかったのか？
- ・ 人は石垣、人は城・・・（つつじが崎の館）
- ・ 信玄堤、ほうとう
- ・ 自分だったら…？

思考判断 信玄の資料から、武田氏の強さを騎馬隊などの戦術面だけでなく、信玄の人を信じ大切に思う心を考えたり想像したりする。

武田軍の強さの秘訣（速さ）を確認し、対策を考えていったので、武田軍の速さを封じる作戦をたくさん見つけることができた。馬防柵から戦いの時刻を予想したり、地面のぬかるむ天候まで予想したり、とても気づきの多い授業になった。

長篠の戦い・長篠の合戦の絵を見ながら、信長・家康連合軍と武田軍との戦い方の違いを見つける。

○織田軍は、最強の騎馬隊をもつ武田氏をなぜ倒すことができたのだろう

- ・ 雨の次の日を選び、馬の速さを遅くした。
- ・ 信長、秀吉、家康が三角形の位置にいる。組織的な動きをしている。
- ・ 馬防柵を夜のうちに作り、早朝に戦いをしかけたのでは・・・。
- ・ 天下を統一したい、争いのないまとまった国にしたいという信長の願いがあったのでは・・・。

技能表現 信長・家康連合軍と武田軍との戦い方の違いを見つけている。
☆一人一人に資料を配布し、記入できるようにしておく。鉄砲でも不利な点はないのか？と問い、信長のさらなる戦略に気づかせる。

C—1 指導案

C—2 授業記録

4 成果と課題

(1) 成果

① 課題設定の工夫（必要感のある課題）

織田軍は、なぜ長篠の戦いであれほどの工夫が必要だったのか？自分がぶつかった疑問はそこであった。しかし、子どもたちにこの疑問をそのまま投げかけることはできないし、子どもたちが抱いている「織田軍が強い」という固定観念を崩さなければならない。まず、武田軍の強さから学習し、長篠の戦いの3年前の三方ヶ原の戦いでは徳川軍が武田軍に惨敗していることも知らせた。子どもたちから自然にわき起こる「あの最強の武田軍に勝てたのは、なぜだろう」という思いを原動力に授業を進めていくことができ、気づき、考え、練り上げていくことができたと考えている。

② “自ら”になるような教師の働きかけ（主体的な学習活動）

「その時、自分だったら…」という問いかけを大切にしてきた。歴史的事象が動くその瞬間に子どもたちを立たせ、「自分だったら…どう考えるか、どう行動するか」という問いかけをし、自分ごととして学ぶ主体的活動を大切にしてきた。そうすることにより、自ら予想し、調べ根拠をもち、その根拠に基づいて自分の考えを発表する子どもの姿が多く見られたことが大きな成果であった。

(2) 課題

事実を丹念に捉え、正確に事実認識した上で、自分の考えをもつ力を伸ばしていきたい。そこには、教師が適切な資料を集め、生きた教材にすることや事実を実感できる提示の仕方を工夫することが不可欠である。今後、さらに教材を研究し、子どもの心に真に迫る教材や資料の開発に力を入れ、資料から「見えること」をもとに、当時の時代背景や人間の願いなど「見えないもの」を考察し、表現できる子をさらに育てていきたい。

